Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

第167回

公益社団法人
家庭問題情報センター
田中 教仁（たなか のりひと）

言葉にすることの大切さ

非行に至ったAさん（男子高校生）と、Aさんのことで悩む母親が相談に訪れました。親子そろっての面接で、最近のAさんの生活態度の話題になると、親子は互いに非難し始め、面接室には険悪な雰囲気が漂っていました……。

A　顔を合わせれば「悪いことをするな」「遊びに行くな」って、うるさいんだよ。

母　当たり前でしょ。悪いことしたんだから。結局、学校にだって、まともに行っていなかったし。よく平気な顔して、遊んでばかりいられるわね。

A　遊んでばっかりじゃねえよ。バイトだってしているだろ。

母　苦労して育てたのに、悪いことして……。学校も停学になるし。それで、そんな口の利き方をして……。情けないわよ、お母さんは。

A　分かっているよ……。

母　何を分かっているのよ。何にも分かっていないでしょ、あんたは。

A　だから、分かってるって言ってるだろ。

カ（カウンセラー）　……二人とも、個別の面接で、もう少し、互いに思っていることを話してみましょうか。

それぞれ個別に行った面接で、母親は父親が他界してからのこども達の養育の苦労と、Aさんが非行に至ったことの悲しさ、今後の心配を語りました。Aさんは、非行に対する反省を述べるとともに、迷惑をかけてしまった母に対して、申し訳ない気持ちがあることを言葉少なに語りました。そして、二人に落ち着きが見られたところで、カウンセラーは、それぞれに了解を得て、再び親子同席での面接を設定しました。

カ　それぞれのお話を聞き、お互いに、相手が自分のことを分かっていないと言っていますが、お母さんの心配をAさんなりに理解しようとしていますし、Aさんの反省とこれからの決意はお母さんにも伝わっているように感じました。

母　そうでしょうか。だと良いんですが。

カ　ええ。Aさんはどうですか。

A　俺は……。俺はそう思っているけど、母さんは分かってくれているのかな。

母　分かりたいと思っているよ。でも、あんたの態度は、どう？昨日だって……。

A　いや、だから昨日はさぁ、本当にバイトで遅くなったんだって。なんで、信じてくれないの？

カ　昨日のこと？

母　ええ、昨晩も遅くに帰ってきたんですよ。今日、ここの面接があるっていうのに。「バイトで遅くなった」って。

A　だから、バイトだったんですよ。店長から、急きょ「人手が足りないから手伝ってくれ」って言われて。

カ　へー。頼りにされているんだね。



過去のカウンセリング記事はこちら

母　どうだか。

A　はい。だから「1時間だけなら大丈夫です」って応じたんです。

カ　店長、喜んだでしょうね。でも、どうして、1時間だけだったの？

A　いや、だって、母さんが……。

母　何、私のせいって言うの？

カ　お母さん、Aさんの言いたいことを聞いてみましょう。Aさん、話を続けてくれるかな。1時間だけにしたのは……。

A　えー、だってさぁ。うーん。

カ　「だって」と言うからには、理由がありそうですね。言葉にしてみましょうか。

A　だって、母さんが心配するだろうから。

カ　お母さんが心配する、そう思ったのですね。

A　はい。それは間違いない。ただ、バイトでは、やっと店長に認められてきたし。

カ　だから、1時間にした？

A　そうです。でも、帰ってきたら、いきなり「あんた、夜遅くまで何してたの？」って怒鳴るし。

母　怒鳴ってなんかないわ。心配だったの。店長に頼まれた話も、聞いていないわよ。

カ　あー、そうか。お母さんはAさんの事情を聞いていなかったのですね。そして、Aさんは、お母さんに1時間だけ延長した理由を伝えていなかったんだ。

母　ええ、まあ。（Aさんは隣でうなずく）

後日、Aさんと母親は、カウンセラーが勧めた高齢者施設でのボランティアに参加し、Aさんは利用者の方々に優しく接したので、職員からその活動ぶりを褒められていたそうです。利用者や施設職員から、たくさん「ありがとう」を言われたようです。また、共に参加した母親が作業の手順に戸惑っていると、Aさんは無愛想ながらも母親を手伝い、最後のミーティングの場では「一緒に参加してくれてありがとう」と小声で伝えたことを、母親が報告してくれました。次のやり取りは、ボランティア活動の後に行った面接での一場面です。

母　私、思い出しました。

カ　はい。何を思い出したのですか。

母　ええ。本当は、優しい子なんです、Aは。ボランティア活動の中で、Aがお年寄りに優しく語りかけているのを見て、ああ、そうだったなぁって思い出しました。「ありがとう」って言ってもらえる子だったんだなって。

カ　そうでしたか。Aさんの優しさを思い出したのですね。そのことを、もう少し教えてくれませんか。そうですね、例えば、小学生の頃のAさんの優しさのエピソードなど。

母親は、持参した家族の写真やAさんの学校行事の写真、学校の通知表などを眺めながら、過去と現在におけるAさんと家族のエピソードを語ってくれました。隣で聞いていたAさんは、はにかみながらカウンセラーと母親を交互に見ていました。

カ　お母さんが、そう言ってくれていますよ。Aさんからは、何かお母さんに伝えたいことはないですか。

A　ええー。いや、だから。それは、ボランティア活動の時に言いましたよ。

母　そういうことは、何度でも言ってくれていいんだけど……。でも、私も少し反省しました。いつも忙しくて、Aのことが心配で。余裕がなかったんです。いつ頃からでしょうか、Aの顔をまともに見ていなかったのかもしれません。バイトの件でもめた時も、「おかえり」って、まず言えたら良かったなぁって思いました。

カ　なるほど。あの時の、お母さんの一番の気持ちは「おかえりなさい」ですものね。Aさんは、どうですか。

A　そうしたら俺だって、最初に「ただいま」って言ったよ。

家族の問題で悩む状況では、目の前の対処に追われ、余裕を失いがちになることもあるでしょう。現在につながる過去の整理がつけられ、将来の見通しが持てるよう、自分の気持ちや相手への思いを言葉にすることは重要です。Aさんと母親は、あいさつを始め、日頃から言葉で伝えることの大切さを実感したようです。

